

令和7年度 第1回富士宮市文化財保存活用地域計画策定協議会

議 事 要 録

日 時	令和7年7月7日(月) 13時30分～15時30分
場 所	富士宮市役所 430 会議室
出席者	<p>〔委 員〕小笠原永隆委員、西田かほる委員、小西英磨委員、石田寛二委員、角入一典委員、井出泰弘委員、藁科元成委員、中山實委員、高柳洋子委員、諸星桜委員、斎藤愛委員</p> <p>〔静 岡 県〕静岡県文化財課 課長代理 菊池吉修</p> <p>〔富士宮市〕教育部長 石川佳和 教育委員会文化課学術文化財係 課長 中野香織、係長 渡邊俊太、学芸員 高橋菜月、保竹貴幸、松本将太、原悠翔、柿崎沙織、三上能 企画部企画戦略課 課長 佐野和也</p> <p>〔委託業者〕株式会社フジヤマ 長谷川、渡邊</p>
議 題	<p>(1) 計画案の内容確認</p> <p>(2) 今後の予定</p>
内 容	
開会（高橋）	
高橋（事務局）	<p>ただいまより、令和7年度 第1回富士宮市文化財保存活用地域計画策定協議会を開催する。変更のあった委員の紹介をさせていただく。富士宮市区長会連合会代表が村松悦雄様から藁科元成様に委員をお願いすることとなった。なお、前回から文化財保存活用地域計画の編集等を委託している株式会社フジヤマも同席しているため紹介する。次に、石川教育部長よりご挨拶申し上げます。</p>
挨拶（石川教育部長）	
石川教育部長	<p>本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。これまで協議してきました文化財保存活用地域計画は、本協議会を経て12月に文化庁の認定を受ける運びとなっている。今年度に入り、前回の協議会や文化財保護審議会のご意見を反映させた計画案を4月から5月にパブリックコメントにかけたところ、市民からの意見はなかった。パブリックコメントの際に皆様にも計画案をお送りしたが、その際にいただいたご意見や文化庁からの指摘等を修正したものが、お手元にある計画案になる。本日の協議会を経て富士宮市の文化財保存活用地域計画として文化庁に提出する予定のため、内容等について細かなことでも気になることがございましたらご意見をお願いしたい。本日はよろしく願いいたします。</p>
高橋（事務局）	<p>続いて小笠原会長よりご挨拶申し上げます。</p>
挨拶（小笠原会長）	
小笠原会長	<p>いよいよ文化財保存活用地域計画も大詰めとなり、12月には文化庁に提出する。これが富士宮市の文化財の根幹をなす計画になるため、活発なご議論をお願いしたい。</p>
<p>(1) 計画案の内容確認</p> <p style="text-align: right;">進行：小笠原会長 説明：渡邊</p>	
小笠原会長	事務局から報告を。
渡邊（事務局）	(序章の説明)

小笠原会長	意見、質問等はあるか。
佐野委員 (企画戦略課)	<p>総合計画の策定を同時進行で進めている。総合計画の方向性だが、これからの 10 年間は人口減少を受け入れた上で、市民がいかに幸せに暮らせるまちづくりを進めるかが重要である。将来都市像も「幸せを実感するまち」という意味合いのものを掲げる予定である。</p> <p>そうなると、文化の活用が非常に重要になってくる。これからは市民に向けて発信し、受け止めてもらい、良いと感じてもらえる状態を含めて外に発信することが必要となる。活用していく上で、町全体でそのような考えのもと進めてきたい旨を、この場で伝えさせていただく。</p>
小笠原会長	<p>地域づくりを進めるうえで文化を見つめ直し、いかにまちづくりに活用していくかが今後重要になる。アイデンティティを高め、市民が誇りを持ち、若い人や市外にいる人が富士宮市の素晴らしさを実感できるよう、様々なところに普及していくとよい。</p>
渡邊（事務局）	(第 1 章の説明)
小笠原会長	第 1 章に関して意見、質問等はあるか。
中山委員	pp. 1-13 の図に案内所の名前が入っているが、富士宮駅前の観光案内所と、浅間大社の寄って宮観光案内所が欠けている。追加をお願いしたい。
渡邊（事務局）	(第 2 章の説明)
斎藤委員	pp. 2-13 の下から 3 行目だが、仏飯器がどこの遺物なのかが文面からはわからないため、「神仏習合といった当時の宗教観も浮かび上がる」というのは伝わりづらい。
渡邊（事務局）	表現を改める。
小笠原会長	<p>本計画では未指定文化財は非常に重要な位置を占めている。未指定文化財がなければ指定文化財の重要性がわからないので、未指定文化財をいかに把握していくかが重要。また、未指定文化財は今後調査するほど増えていくため、今後も調査を続け、基礎資料としていくことも重要。</p> <p>確認だが、未指定文化財のところに「今後調査を続けて数が増える可能性がある」等の記載はしなくてよいのか。</p>
高橋（事務局）	文化庁から指摘はなかった。
井出委員	県指定文化財の「上条の桜」と、天然記念物の「スミガイトのヤドリ木」は同一ではないか。上条の桜がある場所の小字がスミガイドである。
角入委員	未指定文化財が 7000 近くあるが、未指定の保存管理は所有者に任せているという認識でよいのか。
高橋（事務局）	所有者がいる場合は、所有者に管理をしていただいている。
小笠原会長	未指定文化財は所有者の理解を得ながら保存管理をしていくことが重要であると書かれている。
渡邊（事務局）	(第 3 章の説明)
斎藤委員	pp. 3-1 の 3～4 行目だが、「湧水等に人々が働きかけてきた」または「湧水等が人々に働きかけてきた」のどちらになるのか。
高橋（事務局）	修正する。
小笠原会長	意図としては人々が湧水等を利用してきた、ということか。
菊池委員	「道と交流がはぐくむ歴史文化」の(1)は「陸(りく)の道」と読むのか、他に読み方があるのか。
高橋（事務局）	陸(りく)のつもりで書いている。

小笠原会長	pp. 3-2 の火山性土壌にハイライトがされているが、これは表現を検討しているという事か。
高橋（事務局）	表現を検討中。
渡邊（事務局）	（第4章の説明）
小笠原会長	質問等はよいか。またお気づきの点があればお願いしたい。
渡邊（事務局）	（第5章の説明）
小笠原会長	第5章は第6章と密接に関わる部分である。先に第6章を説明いただき、まとめて質問の時間を取らせていただく。
渡邊（事務局）	（第6章の説明）
斎藤委員	<p>はじめに、pp. 6-8 の課題方針3の課題①に「特に、子ども達が文化財に触れる機会が十分に提供できていません」とあるが、これはデータに基づくものなのか、こういった声があったのか気になっている。</p> <p>これまでの協議会では、アンケート等から大人が文化財に触れる機会や学ぶ機会が少なく、子ども達の方が郷土に詳しいため、親が子どもから学ぶと聞いてきた。この町では1990年代頃から富士山学習が行われており、生徒達に関しては地域の文化財に触れる機会は一定の効果があつたと感じているため、違和感がある。</p> <p>また、学校教育との連携について提案だが、文化財に触れる機会を未就学児にまで拡大し、幼い頃から富士宮市の伝統産業や民俗文化財に触れられる接点を作ることはできないか。</p>
高橋（事務局）	「特に」を削った場合でも、課題と方針に齟齬は出ないため修正する。
菊池委員	その場合、課題は「学ぶ機会が限られています」で切り、方針を「これまで続けてきたこども向け講座については引き続き行っていきます」とすれば、措置に繋がるのではないか。
高橋（事務局）	具体的な措置でも継続強化にしているため、「学ぶ機会を提供し続けます」に修正する。未就学児に関しては計画が本格的に動き出した時に具体的な方法を検討していく。
斎藤委員	<p>次に、措置43の文化財見学イベントの開催に、歩く博物館をはじめとした文化財を巡るツアーとあるが、歩く博物館はある程度体力があり、健康で、自力で移動ができる人向けであるため、これと並行して車椅子や杖を使う人でも参加ができるコンパクトでライト層向けの取組も必要。</p> <p>また、例として挙げられている文化財の修理や整備等の見学以外にも、伝統的な産業や、民俗文化財等の練習の場を見学することも、文化財と触れ合うことになるのではないか。</p>
渡邊（事務局）	措置の内容の書きぶりについて検討する。
高橋（事務局）	ライト層向けの具体的な措置の内容は実際に運用が始まってからになる。計画書に記載はできないが、案として記録させていただく。
斎藤委員	<p>措置52文化財マップの作成は、世代を問わず自分から能動的に文化財と触れ合う機会を作ることができる、素晴らしい措置だと思う。マップを作成する際、デジタル端末上であれば表示切り替えや絞り込み検索ができればよい。</p> <p>措置54の説明板は、受け取る側の関心の程度によって情報量をコントロールできるような作りであるとよい。例えば博物館であれば、見出しでの要約と詳細のキャプションがあり、より詳細が載っている情報端末や引き出し型の仕掛け等、段階的な情報量の使い分けがされている。説明板でもこのような工夫ができればよい。また、説明板の多言語化への対応について、説明板上は短い文章で済ませ、詳細はスマートフォン等で表示、もしくは多言語対応しているポータルサイトを作成してはどうか。</p>
渡邊（事務局）	デジタルに関しては実際に計画を運用していく段階で検討する。

斎藤委員	最後に、重点的に行う措置に関連する措置の表記に齟齬があると仰っていたが、(1) 富士宮市立郷土史博物館整備事業の No73 は、今回の資料では No71 になるのではないか。
渡邊（事務局）	修正する。
藁科委員	街中の人々は9月中旬になると富士宮囃子の練習をして祭り当日に備えるが、一部の地区で行われているため、他地域には富士宮囃子を全く知らない人もいる。基本方針3を情報発信から周知理解に変更したのはとても良い案だと感じた。
小笠原会長	確認だが、周知理解も保存・管理等と合わせて周知・理解と表記を統一させるとよい。また、角入委員から指摘があった未指定文化財の管理は基本方針2の保存・管理と基本方針3の周知・理解のどの辺りに関わるのか。
高橋（事務局）	「15 市登録制度（仮）創設の検討」と「37 文化財を守る意識の醸成（継続）」が基本方針2の未指定文化財に係る内容になる。基本方針3は「43 文化財見学イベントの開催」で未指定文化財についての周知を図り、「46 出張展示（継続）」で文化財の概要について知ってもらう。その他にも、文化財の紹介パンフレットやマップを作成することで、どこにどの文化財があるのかを市民に広く知ってもらうことを、未指定文化財の保護に関連する取組として記載している。
角入委員	pp. 5-2 の基本方針3の中に「所有者や行政だけでは守ることが難しくなっています。」とあるが、未指定文化財をどのように保存していくのかわからない。
高橋（事務局）	聞き取りをして感じたが、高齢の方はどこに何の文化財があるのか知っているが、若年層は知らないことが多かった。まずは何の文化財があるのか周知することから未指定文化財の保存を始めていきたい。具体的な方法は地域の中に何があるのかを知ってもらってからだと考えているため、措置として反映できていない箇所になっている。
渡邊（事務局）	文化財を保護していくためには修理の際に補助金が出るが、全てに対してお金を出すことは難しい。所有者がいる文化財であっても、地域全体で守っていこうとする雰囲気を作っていきたい。
角入委員	所有者は自分が持っているものが未指定の文化財であることを理解しているのか。
高橋（事務局）	理解している方とされていない方がいるため、まずは価値を知ってもらう事が大事。
角入委員	所有者自身の意識がなければ捨てられてしまうことがある。
石田委員	古文書を読めないからわからない、という人が多い。内容を理解すれば守らなければいけないと思うのではないか。
藁科委員	大石寺から、私の家に日寛上人からの手紙があると連絡をいただいて確認をしたが、これまでの保管方法が杜撰だった。大石寺から連絡がなければ捨てられていた可能性もある。貴重なものが残っているため、資料の掘り起こし後の保管方法は検討が必要になる。
小笠原会長	以前博物館や文書館に勤務していた頃、地域の文書類を寄託、または寄贈していただき、文書館で保管・管理、目録作成を行っていた。だが寄託の際、受け入れ先に十分な収蔵施設と保管・管理体制がない場合は施設をたらい回しにされ、代替わりした際に相続人が捨ててしまった事例もある。今後、深刻な問題になると考えているため、適切な保管・管理体制を作ることが大切である。近々の課題は滅失を防ぐため、計画のどの部分を使うのか、事務局で考えていただきたい。
井出委員	以前街中に立派な建物がああったが、所有者は文化財に指定されると管理が煩雑になるため、あえて解体した事例がある。所有者の意思の確認も必要だが、意識の醸成をお願いしたい。
角入委員	未指定文化財の管理方法はキーワードを記載し、次章の博物館の項目との繋がりを読めるようにしてはどうか。
高橋（事務局）	基本方針1で資料の掘り起こし作業、基本方針2の最後で博物館について触れているが、未指定とは書かれていない。「未指定文化財を保管し、伝えていく体制を構築

	する」の内容を追加する。
石川（事務局）	実物を見てもらう事で文化財の散逸を防げるのではないかな。
角入委員	面白おかしくやった方が良いか。ただしその前に文化課で体制を作る必要がある。
石川（事務局）	貴重なものであるとわかり次第、文化課に連絡していただき、寄託に繋がれば良。
諸星委員	メディアに盛り込めばいい。気軽に相談できる窓口があればコンタクトもとりやすくなる。デジタルを活用するのであれば検討しても良いのではないかな。
高橋（事務局）	LINE 等で文化課に写真を送ってもらうのはどうか。
角入委員	市民参加型の企画を開催した方が次の展開に結びつきやすくなるため、市民を巻き込んだ方法も必要。
高橋（事務局）	市史については、今も古文書を持ち込んでくださる方が複数いる。そこから個人宅やその周辺の歴史がわかり、資料の掘り起こしに繋がることがあるため、継続する。
石田委員	市役所まで来るのは壁が高い。広報等で情報を出せば資料が出てくるのではないかな。
菊池委員	実際に十津川村が「処分する前にご一報いただきたい」と広報に掲載していた。
西田委員	pp. 6-2 の「3 富士宮市史編さん事業」だが、以前は市史編さんに向けて資料集を刊行すると記載していた。おそらく、次の市史の編さんや資料集を刊行できる時期が未定であるため削除したと思われる。その点はいいと思っているが、市史編さん事業は掘り起こし等、様々なことを行っている。市史編さんを単なる記念事業で終わらせるのではなく、継続的な未指定文化財の掘り起こしのため、膨大な資料や目録、写真を活用していくことが重要である旨を追加していただけないかな。前期で終わるが、それを踏まえた活用が可能である旨を盛り込むといいのではないかな。
渡邊（事務局）	措置の内容の書きぶりと期間について検討する。
菊池委員	pp. 5-2 は将来像から各基本方針に矢印が下りているが、矢印の方向が逆ではないかな。これに関して事務局の考えはどうか。4つの基本方針はパラレルな関係なのか、1から2へ派生していくのか、見せ方について考え方があれば説明をお願いしたい。
渡邊（事務局）	将来像に向けて何をするのかを示したものが基本方針であるため、上から下へ矢印を出していた。表現を変更する。
菊池委員	自治体によるが、矢印ではなく線で繋ぐ計画もある。
諸星委員	線を使わず基本方針の周りを囲む等の方法でもいいのではないかな。
小笠原会長	pp. 6-10 基本方針4、課題・方針③の誤字についてだが、「協同」ではなく「協働」。この場合は市民との連携を促進する対等な関係という意味合いで「協働」がよく用いられるため、変更してはどうか。
渡邊（事務局）	修正する。
小笠原会長	次に、基本方針4 未来へ活かす（活用）の文章は、最後に「文化財を市民主体の地域づくりへ活かすことを目指します。」とある。これを「市民主体の地域づくりに寄与することを目指す」等、表現の変更を検討していただきたい。 最後に、pp. 6-4 方針④「包蔵地の適切な把握に努め」とある。この方針に対応する措置はNo. 39 だが、これは分布調査を随時実施し、遺跡の範囲や新規散布地を確認するといった分布地図を適宜更新していくという認識でよいか。
高橋（事務局）	遺跡地図の更新で間違いない。
佐野委員	措置 No. 21 の根原地区火入れ事業は過去に火災が発生したことがある。課題に後継者不足の記載があるが、方針には書かれていないため、無形文化財の課題や対策も記載していただきたい。

高橋（事務局）	措置 No. 33 に継承支援という形で記載はしているが、方針の部分でも後継者に関する内容を記載するよう修正する。
小笠原会長	措置 No. 41 は後継者育成に入るか。それとも有形・無形に関わらず指定文化財の管理団体への支援か。
高橋（事務局）	指定の有無は関係ない。
渡邊（事務局）	（第 7 章の説明）
西田委員	以前の関連文化財群 1 は広域的だったが、コアエリアのみに変更したのか。
高橋（事務局）	コアエリアのみに変更した。
井出委員	pp. 7-10 の No. 33 富士宮の酒造りは、富士錦酒造（上柚野）の南にかつてなまこ壁の養老酒造があった。残存していれば建物内の見学等活用ができるのではないか。
井出委員	建物は取り壊された。
菊池委員	歴史文化を活かしたまちづくりの促進と観光の周遊につながるもので、関連文化財群に位置付ける必要があるものは、文化財の学術的価値ではなく、社会的価値を高める取り組みに重点を置くべき。だが取組の材料に、まちづくりの活用促進や観光の周遊措置に直接繋がる活用が少ないことが気がかりである。特に近代産業は掘り起こしをお願いしたい。お酒等があるため、食べ歩きツアーや産業にも活用できるのではないか。
小笠原会長	私も富士山の清流というテーマは新しい視点だと関心を持っていた。是非広く産業に寄与したものにしてほしい。
高橋（事務局）	措置 No. 64 しずおか遺産産業の推進で非常に簡潔にまとめたため、観光に触れたうえで詳細な内容を記載するよう修正する。この分野自体、市の方で調査ができていない。調査をしつつ活用に繋げたい。
渡邊（事務局）	（第 8 章の説明）
中山委員	図 8-2 に浅間神社本殿とあるが、浅間大社ではないか。
高橋（事務局）	本殿の指定当時は浅間神社と呼ばれていたため、指定名称は富士山本宮浅間神社本殿である。県指定の社殿は浅間大社になってから指定された。
斎藤委員	保存活用区域に高砂酒造に関するものが複数ある。関連文化財群と保存活用区域双方に挙がっているものをリンクさせ、活用することは現在検討されているか。
高橋（事務局）	まだ具体的な話はできないが、街中にある文化財をリンクさせて活用したい。
井出委員	高砂酒造は元々、山中正吉商店という名前だった。途中から経営者が変わり高砂酒造になった。現在の店名と昔の店名のどちらを掲載するのが良いか。
諸星委員	どちらの店名も書くのはどうか。
小笠原会長	現在の所有者が嫌がる恐れがある。
高橋（事務局）	表記は高砂酒造とし、必要に応じて「かつて山中正吉商店と呼ばれていた」と補足する。
渡邊（事務局）	（第 9 章の説明）
藁科委員	文化財保存活用区域の中心となっている浅間大社に危害を加える人がいると大変である。市の補助金で防犯カメラを複数設置する事は可能か。
高橋（事務局）	防犯カメラはすでに複数台設置済み。その他に防災設備も手厚く整備した。首里城の火災以降、文化庁が防災設備に対する補助金を手厚くしていた時期があった。浅間大社の防災設備は火災報知、放水銃等を更新済みである。
藁科委員	浅間大社の池の水は昔に比べて量が少なくなっている。

高橋（事務局）	池とは別に防火水槽も設置済み。
西田委員	防災に関する措置だが、指定文化財と記載されているものが多い。未指定文化財も含めて検討していただきたい。
諸星委員	観光客向けに圧縮したデジタル版のハザードマップを用意してはどうか。
渡邊（事務局）	（第 10 章の説明）
斎藤委員	図 10-1 では文化財保存活用地域計画協議会と書かれているが、それ以降は地域計画策定協議会と表記されている。ここは表記を統一しなくても問題ないか。
高橋（事務局）	表記を統一するよう修正する。
渡邊（事務局）	来年度以降は作成が終了しているため、文化財保存活用地域計画協議会とする。
小笠原会長	これまでの内容を含め、お気づきの点があればご発言いただきたい。
石田委員	<p>現在、人口が減少傾向にあることから、観光協会では観光客を呼び込み富士宮市を潤そうと考え、SNS 等の運用を行っている。第 6 章を見せていただいたが、文化財の活用にも様々な方法があると感じた。観光協会も協力させていただき、情報発信を行っていききたい。</p> <p>また説明文の多言語化は、観光協会の HP が 12 か国語に対応しているため、作成は容易だと思う。</p>
小笠原会長	時間となったので、以上で議事を終了とする。
（２）今後の予定 進行：渡邊 説明：渡邊	
渡邊（事務局）	<p>（今後の予定について説明）</p> <p>今日の修正を加えていくが、以降の修正の確認については、会長に一任いただくということでよいか。</p>
一同	よい。
渡邊（事務局）	質問等がなければ本日は以上で閉会とする。ありがとうございました。

以 上